

NIPPO  
四国支店長

たかはし しのぶ  
高橋 忍氏

支店長



## 合材工場拡充で受注攻勢

関東近郊での豊富な現場勤務などを経て四国支店には2022年4月に着任した。この1年間、舗装事業部長として手腕を振るう中で「四国は4県それぞれ特徴が異なる」と実感した。「どっぴり漬か

り、人・ものを含めた地域特性や環境に早く順応することが大事」と自身に言い聞かせる。公共工事では四国地方整備局と西日本高速道路四国支社の舗装工事が主戦場となる。「整備局の仕事は契約から施

うち、3カ所に脱炭素化の取り組みに有効なフォームドラスファルトの製造設備を年内に新設する。電気自動車や天然ガスパイプラインなど脱炭素関連の設備投資の動向も注視しつつ、環境に優しい製品として売り込んでいく。

工計画、安全、工程、品質管理、精算までの一連の流れ（基礎）が学べる。若手のスキルアップになる」として、継続的な受注に意欲を見せる。資材価格の高騰など先行き不透明な情勢が続いているが、「立ち止まっているわけにはいかない」と強調。4県7カ所にある自社合材工場の出身、57歳

職員には「リーディングカンパニーの一員という自負を持ち、模範的な行動を心掛けてほしい」と期待する。一人で抱え込まない雰囲気作りに徹し、山本五十六が残した「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ」を率先する。（4月1日就任。弘前大学農学部農業工学科卒。宮城県



## 支店長席

### 任された仕事に全力投球

「支店長としてはもちろん、人の先輩として社員と接したい」と抱負を語る。みんなで仕事をしている意識を持つことの重要性を強調し、何でも話せる雰囲気づく

NIPPON四国支店長

たかはし しのぶ  
高橋 忍氏

りの役目を買って出る。「意見は一つではない。それぞれの立場でさまざまな意見がある。それを分かかってほしい」との思いは強い。関東を中心に従事してきただけに、四国4県の独自性を肌で感じている。「“四国”でくくるのではない。どっぶりつかり、人やものを含めた地域特性に1日でも早く順応したい」という。「仕事の大小は一切問わない。お客さまはみんな一緒。任されたものに全力投球するだけ」と運営方針を語る。確かなものづくりを通じて信頼を勝ち取り、それが次の仕事につながる好循環を描く。「時代の流れに乗り遅れないよう、われわれの

強みである技術力と“これまで積み上げてきた経験と実績”をPRしながらインフラ整備に尽力したい」と意気込む。

“工事屋”として現場を渡り歩いてきた。完成を迎えた時の喜びを数多く知り、自身で手掛けた全国の道路巡りを老後の楽しみにする。「担当現場は自分では選べない。だからこそ、現場を任されている責任に喜びを感じ、期待に応えたいとがむしゃらだった」と振り返る。

1990年3月弘前大農学部農業工学科卒業、同年4月日本舗道(現NIPPON)入社。関東第一支店神奈川統括事業所長、四国支店舗装事業部長などを経て、4月から現職。趣味は船釣り。仙台市出身、57歳。